

「生きることを考える場に」

“がんカフェ” 月1回開催中

がん患者やその家族、遺族らが、がんを通して人生や命の意味を考える市民の集まり、「がん哲学外来カフェ」がたまプラーザで毎月1度行われている。

この取組は、2008年に順天堂大学医学部の樋野興夫教授が患者の心に寄り



ざっくばらんに話し合うカフェ

添おうと開設したがん哲学外来を元に、全国に広がっているもの。たまプラーザでは美しが丘在住で7年前に息子をがんで失った和田眞さんが6月から開催している。

当日はがんと闘病中の人や家族を失った人など19人が参加。告知を受けた女性が「気持ちの整理がつかない」と話すと、経験者からは「診断後2カ月は自分の中で嵐が吹き荒れていた。それが当たり前」などの話があったほか、「医者にはサポーター。自分の病気を治すのは自分」とアドバイスを送っていた。

主催する和田さんは「悲しみや苦しさを共有し、命の大切さを見つめ、一生懸命生きることが考える場にしたい」と話している。

カフェは毎月第1土曜、たまプラーザ地域ケアプラザで午後2時から4時まで開催。参加費100円。(問)和田さん ☎090・1322・0457